

平成30年9月定例会 総括審査会

川田昌成議員

委員	川田 昌成
所属会派 (質問日現在)	ふくしま未来ネット
定例会	平成30年9月
審査会開催日	10月2日(火曜日)



川田昌成委員

せっかく貴重な時間をもらったので、まず知事に自然保護について聞く。

9月11日に本県で尾瀬サミットが開催され、その折に知事が隣県の知事たちと尾瀬について意見交換をしたとの話を聞いたが、尾瀬サミットの成果に基づく尾瀬の自然保護及び適正な利用について、知事の考えを聞く。

知事

尾瀬については、今年度から高校生や留学生等を対象としたモニターツアーや山岳雑誌への特集記事の掲載、参加体験型の野外イベントの開催など、ふくしま尾瀬の魅力をより多くの方々に届けられるよう、さまざまな事業に取り組んでいる。

先月の尾瀬サミットにおいては、改定された新尾瀬ビジョンについて、参加した方々の思いや情熱のこもった意見に触れる中で、重要な視点を3つ感じた。1つ目は若者に尾瀬のファンになってもらうこと、2つ目は尾瀬らしい景観を守ること、3つ目は尾瀬の魅力を発信し共感の輪を広げることである。

今後とも、モニターツアーの充実やSNSを活用した情報発信、野生鳥獣による食害対策など、尾瀬の自然保護と適正な利用にしっかり取り組み、関係機関と連携しながら、新しいビジョンが掲げる「みんなに愛され続ける尾瀬」の実現を目指していく。

川田昌成委員

震災から7年半たつが、最近自然の脅威を感じると同時に自然への畏敬の念を強く持っている。今話があったように、尾瀬は貴重ですばらしい自然の遺産だと考える。そのような意味で、今後世界遺産に登録したいという強い思いがあるが、知事の考えを聞く。

知事

委員指摘のとおり、福島尾瀬、また、3県にまたがる尾瀬はすばらしい自然環境を誇っている。一方で、自然災害の怖さや畏怖の念というのも重要であると考えます。

今般、尾瀬サミットにおいて、県立福島工業高校の山岳部の生徒と話す機会があった。彼らが目を輝かせながら、「尾瀬はすばらしい」、「このすてきな場所を多くの方に知ってほしい」と言う生の話を聞き、彼らの思いを今形にしていくのは我々自身の責務であるとの思いを体を持っている。今後とも、尾瀬の保護と利活用の推進に積極的に取り組んでいく。

川田昌成委員

大変力強い答弁であった。今後の施策に大いに生かしてほしい。

東京オリンピック・パラリンピックの熱が日ごとに上がってきた。本県においても復興五輪という形でソフトボール及び野球が開催され、また、聖火リレーも行われるが、これらの感動を子供たちにどのように与えるかを考えていくことは我々の使命である。

そこで県教育委員会は、公立学校の児童生徒にオリンピックの感動を共有させるためにどのような取り組みをしているのか。

教育長

県教育委員会においては、これまでもオリンピック・パラリンピック教育やマスコットの選定投票を行い、機運の醸成に取り組んできた。

今後は、大会本番に向けて、聖火リレーや競技の応援、ボランティアとしての活動など、参加体験の機会をできるだけ多く確保することにより、その感動をレガシーとして児童生徒の心に残せるよう積極的に取り組んでいく。

川田昌成委員

ノーベル賞の受賞という明るいニュースがあった。受賞した本庶佑教授は教科書を余り信用するなど話しており、やはり子供たちには感動を与えることが教育の原点と考えるが、教育長の考えを聞く。

教育長

教科書を学ぶことは非常に大事だと思うが、教科書だけを学ぶのではなく、教科書を超えていくような好奇心や感動を子供たちに持たせることにより、未来のノーベル賞につながればと考えている。